

ツリガチ!

TSURI GACHI



★やってしまった! ガチで「クーラー満タン早揚がり」。茨城県日立会瀬港・第二海神丸からのスローピッチジャークジギングは、4人中3人が初体験のメンバーだったにもかかわらず、ヒラメが釣れ盛ったのだ。しかも大ヒラメも多数交じる好釣果。平べったくて重めのジグが、圧倒的食わせ力を発揮した。

茨城県日立沖の スロジギ

文◎高橋 剛

朝4時。空はまだ暗く、茨城県日立会瀬港の全容は見えない。ときおり耳元でブーンという蚊の羽音が聞こえるぐらいで、ひたすら静かな朝だった。

停泊している第二海神丸のそばに集まったのは、ヨッシーと吉岡進さん、釣友のイソメマン鹿島一郎さん、釣友のイソメマン板倉友基さん、編集担当の近ちゃんこと近田憲男さん、そして筆者タカハシゴウの5名である。スローピッチジャークジギング(以下スロジギ)に挑もうとしているのだ。

「わっはっは、ポリポリ」「いっひっひっひ、ポリポリ」と、乗船前から早くもくだらないバカ話で盛り上がり、港の静寂を打ち破る。ちなみにポリポリは蚊に食われた箇所をかいている音である。

盛り上がりつつも、総員の心中は千々に乱れていた。「釣れる気しかないな」と強気になった数十秒後には、「いや、ボウズもあり得るな……」と弱気になる。

かと思えば、「爆釣間違いないだけ」と確信し、準備を進めながら「釣れなかったら、コレも無駄になるのか……」と薄ら寂しくなる。

いつも以上に感情の起伏が激

しいのは、プロアングラーであるヨッシーを除くと、残りのメンバー全員がスロジギ初体験だからだ。

スロジギは、なかなかマニアックな印象が強い釣りである。「細糸細竿で200グラム以上の重いジグを使って深場を攻め、ヤリトリも竿を起こさないストリートボンピング」という勝手なイメージがある。特殊、とまでは言わないが、独特な釣りだろう、と思いついていたのだ。

スロジギの威力を 目の当たりにする衝撃の1枚

だが、編集・近ちゃんが耳寄りな情報をくれた。第二海神丸がスロジギで攻めるのは水深50メートル前後の魚礁周りらしい。いきなり気が軽くなる。

ジグの重さも、ヨッシーいわく「100〜150グラムで十分だと思えよ」とのこと。ちなみにラインはPE15号、リーダーも5号と、特殊な香りはしない。竿も「専用がなければライトジギング用やタチウオジギング用の竿も使えるよ。150グラムが背負えればまず大丈夫」とヨッシー。ますます気が軽くなる。

そして今回使うジグは、ジャッカル「バンブルズジグス



▲初挑戦のスロジギに少し緊張気味で釣り場へ向かう

「果たして我われで釣りになるのか……」と心配しているところへきて、蚊に食われたこともあって、出船前から敗色濃厚の一回であった。

「ロ」だ。

ヨッシーを除く面々はやったことのないスロジギだが、スロタイプジグは多種多様に発売されている。同銘柄でも形状違いなどが取りそろっていることもある。しかもアシストフックはサイズや形状、アシストラインの長さや色などバラエティ豊かで、ビギナーにはどれを選んだらいいか分かりにくい。

その点「バンブルズジグスロ」は、シンプルだ。重さは100〜250グラムの6種、色が8種あるが、基本フォームはどれも同じ。フックもフロント、リヤともに標準装備されているから、